



令和5年度 事業報告

2024.5.31

TQM

20240531 KOTOEN TQM



令和5年度 事業報告

法人レベル

顧客

①アフターコロナにおける世代間交流の再興

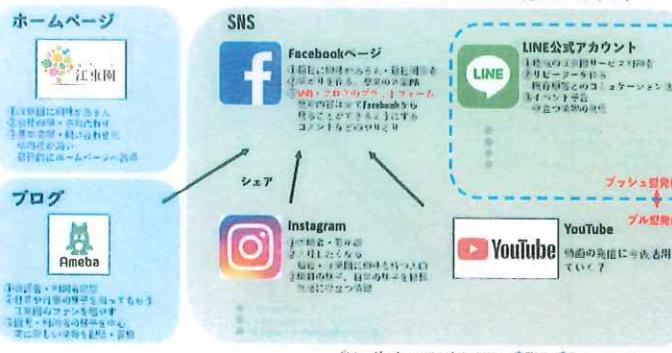
・日常の交流や行事の再開



コロナウィルス発生前の状態に戻すだけでなく、時代の流れに合った形態を構築するため、スタッフ間のコミュニケーションを密に行っている。

②メディア等広報強化

Web媒体の使い分け～江東園のファンを増やすために～
SNSで認知してもらい、ブログでファンを作り、ホームページでファンを売上につなげる！



③社内報DNA強化



広報委員会による書式変更でDNAをより見やすく、気軽に。インナーブランディングの強化。

④第三者評価または満足度調査

・6施設にて実施

【第三者評価】

評価機関：NPO法人グローバルスカイ、日本高齢者介護協会
特別養護老人ホームリバーサイドグリーン、養護老人ホーム江東園、江戸川保育園、障害福祉サービス 江東園ケアセンターつばき えぽっく、江東園つばき保育園

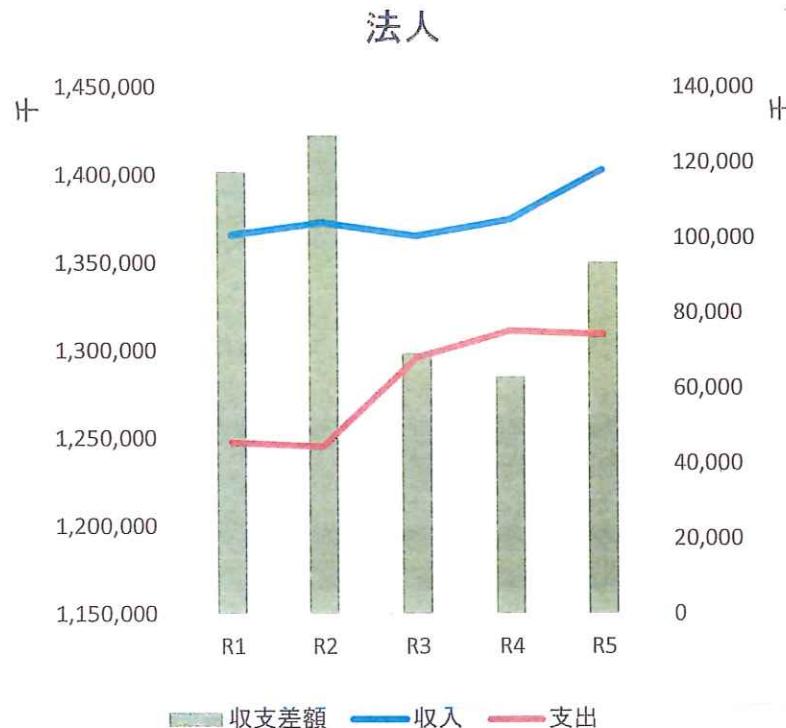
⑤日本世代間交流協会との連携



オンラインセミナーや
養成講座等を通して、世代間交流のパイオニアとしての役割を果たす。

経営・財政

①法人全体収支



②収益率推移 (法人)

収益率推移



③中長期計画策定

- 幹部職員（部長以上）による中長期計画の更新
合宿研修を通して、現状理解と今後の方針について理解を深めた



業 務

①対面での面会再開

- ・新型コロナウィルスの5類引き下げ以降、対面での面会を再開



予約制を取り入れ、1日2組の制限を設けて実施。
フロア内ではなく会議室等の場所を設定し、感染症対策を講じた。

②感染拡大防止ガイドライン

- ・第31版まで更新し、情報公開



2020.5.27発出第1版より第31版まで更新し、ホームページ等で公開
→新型コロナウィルスが5類相当に引き下げになったことから、今後は新たな感染症対策を打ち出していく

③PCR検査

- ・毎週 PCR検査、抗原検査を実施
(東京都による)



④ICTを導入した業務改善

- ・グループウェア「NIコラボ」にて情報共有の効率化やペーパレス化を推進

NI Collabo 360



- ・居宅介護支援事業所にてスマホを導入し、相談支援の業務効率化や多職種連携を図る



人財

①外国人職員・障害者雇用職員を支援

- ・多様な人財が働きやすい職場環境にするために、
外国人サポートチーム・障害者雇用プロジェクトを推進。

【外国人サポートチーム】

- ・外国人スタッフとプロジェクトメンバーの相互理解を促進するイベントを開催



【障害者雇用プロジェクト】

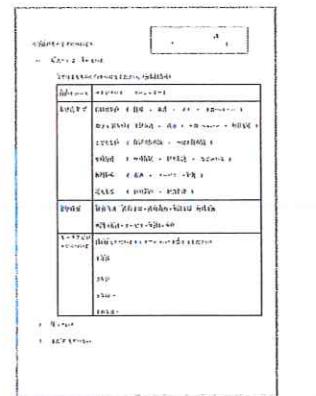
- ・「障がい者雇用お役立ち帳」を作成し、実際に接する際の留意事項について明記したQ&Aを作成



②キャリア形成確認書の導入

- ・スタッフ一人一人のキャリアアップを支援する

- ・期中面談時（9月）に「キャリア形成確認書」を元に、今後のキャリアについて意向調査を実施



③採用活動

【新卒】

大学3年生に向けてインターンシップの回数を増やし、来年度の選考に繋げる。昨年度に比べ説明会の回数を増やすも参加学生6名と少ない結果となる。
一般大学生を対象としたナビサイトからは採用に繋がらず。

- ・大学からの紹介 1名（リバーサイドグリーン）
- ・実習生から入職 1名（つばき保育園）
- ・実習生の友人 1名（えぼっく）

【中途】

採用経路を増やし活動実施。
62名の選考実施し、20名採用。

<内訳>

特 養	1名
居 宅	2名
包 括	1名
江戸川保育園	3名
つばき保育園	2名
ふれあいの間	7名
訪問介護	1名
えぼっく	3名

*未充足事業所多数発生

【結果】
新卒採用 3名採用
中途採用 20名採用

地域貢献

①園むすびの会

- ・地域の高齢者を対象としたフレイル予防
- ・地域の方ど“つながる”ことを目的として実施



(目的)

- ・フレイル予防を行い、安全安心な在宅生活を継続する
- ・江東園の専門職と地域の方がつながる
- ・専門知識の還元

(結果)

- ・合計259名の地域高齢者が参加

③江戸川文化祭

- ・地域づくり委員会によるイベントの開催
- ・防災委員会による炊き出し訓練



(目的)

- ・地域の自主グループの存在を地域の人に知ってもらう
- ・自主グループと江東園と地域がつながる

(結果)

- ・約80名の地域住民が来園

②自主グループ・地域活動リーダーの発掘・育成

- ・まちづくりの担い手の発掘
- ・互助によるまちづくりの推進

(目的)

- ・地域の活性化、人と人とのつながりの再構築
- ・地域住民が主体となった通いの場の創設のため、お世話役（地域活動リーダー）の発掘・育成に取り組む。

(結果)

- ・地域活動リーダー ⇒ 1 グループ
- ・自主グループ ⇒ 5 グループ



④被災地派遣

- ・2024.1.1に地震が発生した能登半島へスタッフを派遣（1.5次避難所）



- ・特養サポート課 CW
- ・在宅サポート課 相談員
- ・障害サポート課 支援員 2名
- ・訪問介護サポート課 サービス提供責任者 計 5名

令和5年度 総括

1. 入所事業において慢性的な人材不足が解消されないまま、事業運営を強いられている。広報費増額や新しい採用方法などを積極的に取り入れ採用強化に努めているが、業種的に他業態と比較すると見劣りしてしまい、競争にならないのが実態である。
2. デイサービスなどの介護在宅事業においては介護報酬単価が低く、実績が報酬や収支に結びついていない。職員は「こんなに働いているのに…」といった声を漏らす。
3. 保育事業において、入園希望者の減少はまだ感じられないが、これからの推移を注視していく必要がある。
4. 能登半島地震においては、区内で一早く5名の専門職を派遣することができた。また、輪の精神を重視する社内の気運を高めた。

◎法人総収入額は14億円を超え、収支差額や積立金も9,000万円を超えた。しかし、人材不足が深刻化しており、今後事業縮小となる恐れがある。魅力ある法人を創造していくため、世代間交流の進化やICTでの業務改善、また地域とのつながりを再構築するため自主グループの発掘や地域イベントを仕掛けた。アフターコロナにおいて地域の活性化を図り、さらに存在感を高めていきたい。



令和5年度 事業報告

事業部レベル

特別養護老人ホームリバーサイドグリーン（短期入所含む）

視点

総括

経営
財政

稼働率 特養（91%）、短期入所（93%）
特養 退所者16名（内死亡退所14名）
短期入所は8月、12月にコロナ発生し、一時休止となる。稼働は上がっている。

顧客

行事等少しずつ日常に戻ってきている。新型コロナも5月に5類となり、4年ぶりに家族会主催のガーデンパーティーも再開され、家族との関わりが深められた。

業務

コロナ対策として感染症予防対策と定期的なPCR検査・抗原検査を実施（2回／週）。
ICTの活用。

人財

外国人労働者の業務内容の精査。年度後期に対応業務の見直し→日本人スタッフと同じ業務ができるよう指導。
中堅職員の育成強化を実施。

地域共生社会の
推進

専門職の地域派遣と園むすびの会開催。
地域行事への利用者参加。



ガーデンパーティー ご家族と一緒に

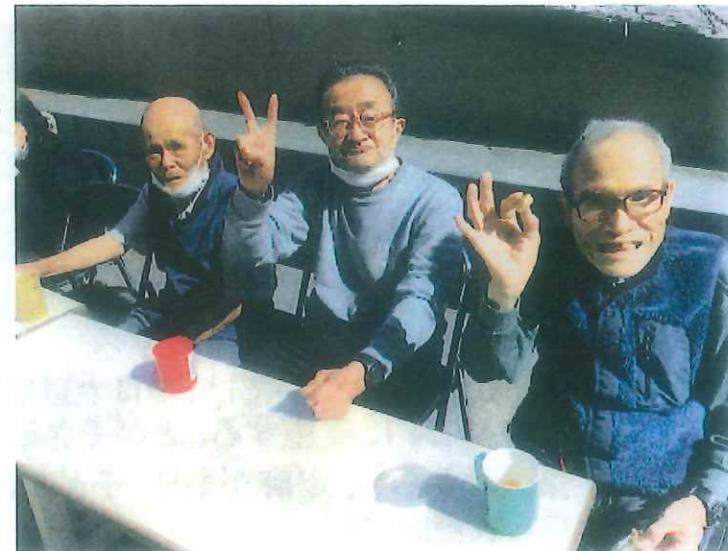


相撲大会力士訪問

統計資料 P.1

養護老人ホーム江東園

視点	総括
経営 財政	利用者の入れ替わりがあったが、平均在籍数50名を確保できた。
顧客	コロナ禍において利用者の運動不足による体力の低下が問題となり、体操などの運動機会を増やすことが課題となった。
業務	感染防止対策に注力するもコロナ感染者が出た。対応に苦戦するも対応方法は確立できた。
人財	多職種との合同勉強会などにより専門性を高める努力をした。
地域 貢献	コロナの状況を把握しながら、地域清掃などのできる範囲の取り組みを行った。



お楽しみ会・クッキングクラブでの様子



統計資料 P.3

江戸川保育園

視点

総括

経営 財政

8月からは、138名定員を上まわることができた。しかし、区外への転居や転園を見据えた広報活動から顧客獲得が必須となる。

顧客

行事の実施については、コロナ以前とおおよそ変わらずに実施することができるようになり保護者からも、定評があり、子ども達の成長も見られた。

業務

ヒヤリハットが月平均で346件と高い数字をキープすることができた。更に、その中から、事例検証会を行い、技術向上が図れた。

人財

コミュニケーション能力、保育知識・技術の向上は課題である。しかし、記録業務などはスピード感を持って達成できるようになる。

地域 貢献

園庭開放や、劇団誘致などで江戸川保育園を知ってもらう機会を作ることができた。また、職員の地域行事への参加で、地域と顔なじみの関係を構築する1歩を踏み出すことができた。



統計資料 P.5

認知症対応型通所介護 江東園ふれあいの里 くつろぎの間

視点	総括
経営 財政	新規利用者23名、抹消利用者21名→抹消者が多く新規利用者が追い付いていない。事業内容一部縮小し、人件費を削減。
顧客	認知症の方が楽しめるレクリエーションを実践する（シナプロジー）。アンケートでは高い満足度は得ている。
業務	えぼづくサテライト利用者、保育園児とのオンラインを活用した交流の実施。
人財	在宅会議における課題解決と支援効果検証。WEB研修の活用。
地域 貢献	家族・居宅介護支援事業所に向けた認知症の啓発活動。地域包括との連携によりシナプロジーを使った認知症予防教室の実践。認知症カフェへの参加。



認知症予防教室

統計資料 P.7

パワーアップトレーニング

視点

総括

経営
財政

平均稼働率は平均 104%と安定。利用者からの評判もよく、順調に推移している。

顧客

在宅生活が継続できる個別プログラムの作成と実施。
通所意欲を上昇させる取組の実施。

業務

リハビリ会議における事例検討。
他職種との連携と指導協力。

人財

リハビリ勉強会による専門性の向上。
(動画検証の実施による多職種連携)
1 on 1による職員指導。

地域
貢献

専門職の地域派遣。(園むすびの会実施による介護予防と自主的に住民が活動できる取組実施)



園むすびの会
フレイル予防



園児お年寄り体験

統計資料 P.9

居宅介護支援事業所 江東園さわやか相談室

視点	総括
経営 財政	医療機関との連携により、病院や訪問看護からの依頼も増えている。中途退職者もあり、本部は目標件数には至らず。
顧客	医療機関退院時援助と癌末期患者の在宅生活援助。 利用者満足度調査の実施。
業務	医療機関との連携強化。 ケアマネジヤーの連携強化と協力体制の構築。 目的毎に明確化されたマニュアルの整備。
人財	毎月のスキルアップ会議の実施と積極的な外部研修参加（48回）。他法人・事業所との事例検討会の開催（7回）。
地域 貢献	行政・安心生活センター・司法書士・成年後見人・児童相談所との連携が強化された。



定期訪問



主任ケアマネージャー交流会

統計資料 P.11・12

視点 総括

経営	・相談件数 5,595件／年間（前年3,958件）1.4倍
財政	・近隣居宅ケアマネ入れ替えや人数増により委託件数2.6倍
顧客	通いの場立ち上げと継続の為、地域リーダー育成PJ等 地域活動強化 。活動数1.37倍
業務	地域の協力者とのつながり（ネットワーク）強化。出張相談処の開催
人財	虐待、社会資源把握等、オンラインも活用
地域貢献	東部地域における地域連携会議を開催。地域がつながっていくための活動共有やこれからやりたい案を共有



↑認知症カフェ ↓地域連携会議



統計資料 P.14

なごみの家 瑞江

視点	総括
経営 財政	委託事業100%達成
顧客	高齢者の通いの場立ち上げと継続支援。親子向けサロンの発掘
業務	重層的支援体制整備に向けた多機関と地域のキーパーソンとのネットワークづくり強化活動
人財	オンライン研修を活用
地域 貢献	スマホ教室・相談の開催。「ちょっとしたことなんだけど」が言いやすい相談処



↑ E S Cまつり ↓ 地域支援会議



統計資料 P.16

障害福祉サービス事業生活介護 江東園ケアセンターつばき えぼつく

視点 利用 者	総括
経営 財政	<ul style="list-style-type: none">稼働率平均88.1%（前年度：88.4%）。引き続き親の高齢化など顕著。新規利用者獲得に向け、特別支援学校との連携を強化。
顧客	<ul style="list-style-type: none">障害の個別特性に合わせた活動を提供。宿泊訓練を鴨川で実施。保護者参加型のイベントを開催。
業務	<ul style="list-style-type: none">ヒヤリハット報告月平均146件。事故防強化の他、QC活動プロジェクトを立ち上げ、業務改善を継続実施。
人財	<ul style="list-style-type: none">白鷺特別支援学校、鹿本学園の他、他事業所との交流研修などを実施。虐待防止委員会を定期開催。
地域 貢献	<ul style="list-style-type: none">もぐらの家、はるえ野との合同イベントを企画。地域各種団体などを巻き込み地域活性化や共生社会実現への取り組みを実施。



8/25宿泊訓練第1班
鴨川シーワールドにて

統計資料 P.18

障害福祉サービス事業就労継続B型 江東園ケアセンターつばき えぼつく

視点	総括
経営 財政	<ul style="list-style-type: none">現員10名。平均稼働率83.7%（前年度：84.1%）
顧客	<ul style="list-style-type: none">月額平均工賃が25,042円（前年度：15,074）となり、初めて25,000円を超える。売上総額：9,397,911円
業務	<ul style="list-style-type: none">利用者個々が力を発揮できるよう作業種目・内容を細分化・個別化することにより、利用者自身が選択できる体制を整備。ふれあいの間での配膳や生活介護での清掃活動等、法人内就労事業を拡大
人財	<ul style="list-style-type: none">虐待防止・人権尊重・利用者支援等の研修を実施利用者が自己決定できる仕組みや職員の文化づくりを行った。
地域 貢献	<ul style="list-style-type: none">地域イベントが活発化。共生社会実現やSDGsなどの高まりから、需要が高まる。



二十歳を祝う会にて

統計資料 P.19

通所介護 江東園ケアセンターつばき ふれあいの間

視点	総括
経営 財政	○稼働率平均85.7%（前年度：83.6%）。入浴のニーズが高く、利用される方のほとんどが入浴を利用されている。
顧客	・レクリエーションやスタンプカードの取り組みにより、利用者が楽しんで活動メニューができるように工夫した。
業務	・ひやりハット報告月平均98.8件。 ・ひやりハット報告の検証を年4回実施し、事故防止に対策強化を行った。
人財	・サービスマナーや職員間の円滑なコミュニケーションには課題を残す。
地域 貢献	・利用者の社会参加の場として作品展への出展を継続して行った。 ・園児等との交流機会が再開



就労B提供のコーヒータイム

統計資料 P.21

通所介護 江東園ケアセンターつばき ほほえみの間

視点

経営 財政

顧客

業務

人財

地域 貢献

総括

- 稼働実績65%（前年度54.5%）。
- 週3日から週2日営業体制を変更。令和5年度をもって事業終了。ほとんどがふれあいの間へ移行となる。

- クラブ活動等継続するとともに、利用者自身が準備や片付けなどを行うことで日常生活リハビリとした。

（ふれあいの間同様）

- ひやりハット報告月平均98.8件。
- ひやりハット報告の検証を年4回実施し、事故防止に対策強化を行った。

（ふれあいの間同様）

- サービスマナーや職員間の円滑なコミュニケーションには課題を残す。

（ふれあいの間同様）

- 利用者の社会参加の場として作品展への出展を継続して行った。
- 園児等との交流機会が再開



ほほえみの間お別れ会

統計資料 P.22

訪問介護 江東園ホームヘルパーステーションつばき

視点

総括

経営
財政

- ・平日援助平均月83.0件（前年度：89.6件）
- ・ヘルパーの確保ができず、サービス提供責任者の援助回数を増やすも事業は縮小傾向。

顧客

- ・土日のヘルパー不足及びヘルパーの高齢化の課題は継続。ICT活用により、サービス提供責任者が援助を行う体制へ移行中。

業務

- ・ICT化を行い、全ヘルパーがスマートフォンで援助管理を行う。

人財

- ・事業所加算（Ⅱ）を継続。毎月のヘルパー研修にて事例検討を実施する。

地域
貢献

- ・複雑な課題を抱える利用者の増加に伴い、社会資源活用の勉強会などを開催。多職種連携を強化。

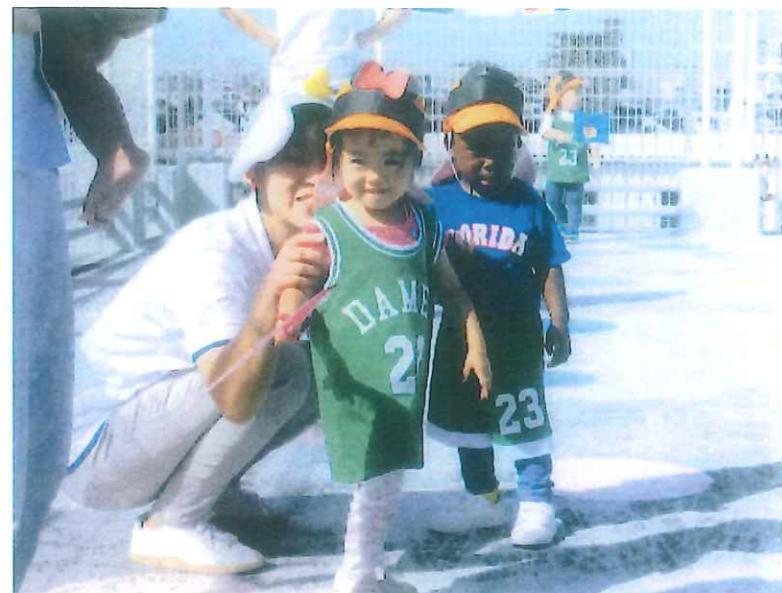


永年勤続表彰

統計資料 P.24・25

事業所内保育所 江東園ケアセンターつばき つばき保育園

視点	総括
経営 財政	<ul style="list-style-type: none">年度途中の入園もあり、在籍20名。安定した事業運営ができた。ホームページやインスタグラムでの情報発信を実施。
顧客	<ul style="list-style-type: none">外国籍の家庭も増え、ICT活用など対応を行った。世代間交流を継続実施。困難ケースなどが増加。関係団体との連携を行う。
業務	<ul style="list-style-type: none">気づきシートでの報告件数ひとり月平均14.7件。職員育成のため、日々のミーティングを午睡時に設けるなど時間の工夫を行い、機会を確保した。
人財	<ul style="list-style-type: none">小規模保育所2園（はな保育園、ソレイユナーサリー）との交換研修を実施。困難ケースなどの増加によりソーシャルワーク視点強化の研修実施。
地域 貢献	<ul style="list-style-type: none">保育室開放を2回実施するほか、地域イベントに参加。



10/13屋上での運動会にて

統計資料 P.27